

平成28年度 第1回台東区次世代育成支援地域協議会

小規模保育事業（ビーフェア上野御徒町保育園）の認可及び利用定員に係る意見と回答

No	委員名	意見	区からの回答
1	西 智子 (委員長・ 学識経験者)	待機児童対策の上からも、小規模保育事業A型による19名利用定員の園の開設は妥当と思われる。 今後の運営にあたり、是非とも保育の質を担保していけるよう、区行政の見守りとバックアップを期待している。	
2		0～2歳児の保育定数が不足の折、ふさわしい事業者が審査に合格し、6月に開園できることはうれしいことである。	
3	堀内 一男 (副委員長・ 学識経験者)	乳幼児の快適な保育にふさわしい施設設定が行われ、父母にとって安心できる保育所を目指してほしい。園庭が近隣公園となるが、公園利用者との関係に配慮して、事故の無い保育に心がけてほしい。	事業者にご意見を伝えます。
4		保育士の確保が話題になるが、父母との心の関係を大切に保ちながら、人間関係があたたかい職場づくりに励んでほしい。	事業者にご意見を伝えます。
5		応募事業者が2者あったが、ビーフェアに決まった一番の理由はなにか。	法人の経営状況や保育所の運営体制が他者よりも優れていたため、選定いたしました。
6	米山 博美 (青少年委員)	待機児童に対して定員数をどう捉えているか。	待機児童は2歳以下に集中しており、小規模保育所の開設は、定員19名と少ないながらも、待機児童解消の一助となっています。
7		前回の小規模保育所の選考も今回も、選考基準70%のギリギリの状態であった。小規模保育所（A型）には、他の運営型より得点し難い部分があるのか。それとも、経営効率などが悪く、魅力的でないため、高得点できる事業者が集まりづらいのか。	小規模保育事業所は、認定保育所に比べ、経営規模が小さく少人数での運営になるため、審査項目中「法人の経営状況」や「収支計画」の得点が低くなる傾向が見られます。
8	廣田 道子 (区民委員)	親会社は進学塾であり、ビーフェアの株式取得に際し、“塾産業の成熟に伴い”低年齢層からの一貫したサービス提供をすること等でのシナジー効果をうたっているが、運営方針等、台東区の幼児教育のあり方と合致しているのか。	審査項目中「運営方針」について、選定委員会でも質問がありましたが、厚生労働省が定めている「保育指針」に沿った保育の提供を行ったうえで、遊びのなかで英語に触れたりしたいという回答がありました。 区としては、認可要件となる保育指針に沿った保育が展開されており、取り組みなどにより、園の特色があることは望ましいと考えております。
9		親会社の傘下に入って以降、開所ペースが上がっており、特に平成28年度は台東区含め、3か所の開設を予定しているが、保育者及び保育の“質”に心配はないのか。十分な経験と実績のある保育者が相当数配置できるのか。 例えば、台東区でこの規模の3園を一度に開所し、既存園と新規採用で対応した場合、想定される問題などは、選定の過程で十分検討されているのか。	選定委員会でも人員確保について質問があり、事業者から職員の配置の考え方や、募集方法などを確認しています。 園長等については経験者を配置し、認可基準を満たす定員を配置するとの回答を得ています。

他委員は意見なし・了承の確認済み